敬老事業　（222万3千円）

市内最高齢者および100歳到達者への表敬訪問、敬老祝金の支給

・88歳（1万円）
　131人（昨年度159人）
・100歳（3万円）
　16人（昨年度10人）
・101歳以上（1万円）
　24人（昨年度21人）

介護予防・日常生活支援総合事業　（2，430万3千円）

・介護予防・生活支援サービス事業、一般介護予防事業（「いきいき百歳体操」「かみかみ百歳体操」など実施。
・運転免許証返納または失効後の移動手段を支援するためにタクシー運賃の割引券（運賃の2割、最大600円）を交付
　申請者91名　利用枚数643枚
※くわしい内容については高齢・障害者支援課まで

児童センター運営事業　（2，882万9千円）

児童の健康の増進や、情操を豊かにするための相談および指導

令和6年度　児童館「あじさい」利用人数　36，379人
（昨年度31，385人）

▲あじさい内観

ごみ収集および処理事業　（1億3，873万1千円）

ごみ全体の処理量は5，072t（昨年度5，219t）を3％の削減となっています。

リサイクル推進とごみ減量の取り組みとして、ごみ収集カレンダーに分別一覧を掲載して啓発しています。

▲ごみ処理場外観

道路維持修繕費　（5，980万2千円）

市道路面の状況を調査し計画的に維持修繕を行い、各地区や地域団体に協力いただいて道路美化・愛護に努めています。

・道路愛護助成金
　68行政区2団体　148件
※各行政区年間3回まで申請できます

消防団活動　（812万9千円）

消防ポンプ車や消防団員詰所の維持費、ドローンを追加配備しました。

令和6年度　火災発生件数
　建物2件　その他火災3件

教育費　（1億3，462万円）

平成29年4月に義務教育学校を開設して8年目を迎えました。

遠距離通学対策として、スクールバス17台で24路線を運航しています。

10月のSAGA2024国民スポーツ大会では弓道競技とスポーツクライミング競技を実施しました。

▲クライミング

市内義務教育学校児童・生徒数推移

	中央校	東部校	西渓校
令和6年度	767人	280人	215人
令和3年度	823人	310人	254人
平成29年度	821人	331人	286人

《付帯意見として》

決算特別委員会として、今後改善あるいは検討を求める事項について、次のとおり意見を取りまとめ、今後の施策や予算に反映するなど、適時適切な措置を講じるように付帯意見しました。

歳入

まず、市税について、税の公平性を期すため、法令に則り滞納処分を行いつつ、更なる収納率の向上に努めること。

次に、基金などの財産運用について、前年度から金利の水準が上昇傾向にあるため、安全かつ効果的な収益を確保するように検討し、運用すること。

歳出

【総務費】

まず、職員の時間外勤務手当が増えたことに関連し、職員の残業が増えることがストレスになっているのではないか、残業を減らす取り組みや心理的負担を軽減する取り組みなど配慮すること。

次に、職員研修について、組織の中で人材を育てることは重要であり、更に工夫して人材育成に努めること。

次に、広報活動について、Facebook, LINE, X, Instagramの4種類のSNSに取り組まれているが、全庁的な取り組みとして、写真や動画を用いた魅力ある発信で更に登録者数を増やし、多久のPRに努めること。

次に、ふるさと応援寄附事業に関して、寄附金は貴重な財源であり、返礼品を含めた経費については、法令を順守し、適正な運用に努めること。

最後に、防犯灯設置補助金について、蛍光灯の生産終了時期が迫っており、照明のLED化を急ぐ必要がある。防犯灯は、夜間の犯罪を抑止し、歩行者の安全と安心を確保するために不可欠であり、早めに対応すること。

【民生費】

発達障害児療育訓練事業について、早期の療育が子どもの発達支援に良い成果があるとの保護者の声がある。今後も、子どもを見守りながら保護者の不安に寄り添った手立てを講じること。

【土木費】

公園遊具定期点検に関連して、点検などにより不具合が確認された遊具については、撤去を含めて早めの安全措置を講じること。また、今後の更新の際は、ユニバーサル遊具の導入も含めて検討すること。

【消防費】

消防団について、団員確保に苦慮している状況であり、団員の処遇改善や組織体制など今後のあり方について見直すことを検討すること。

【教育費】

義務教育学校費の短期留学制度事業について、子どもたちが様々な経験ができるよう、行き先については、国外に限ることなく、国内で本市と交流があるところなども検討し、参加者の拡充を図ること。

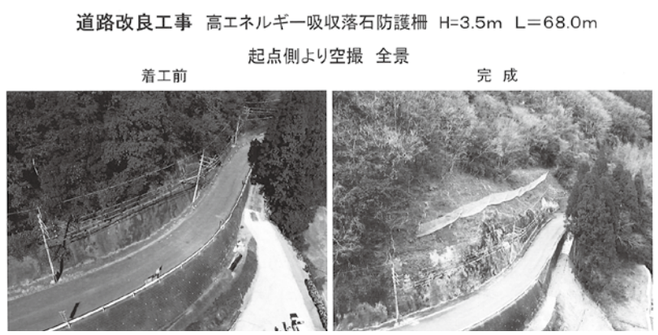
■宅地造成事業特別会計

定住促進施策として、平成26年度に宅地造成をし、平成29年度に分譲を完了している。これまでの宅地造成事業や民間の宅地開発による社会動態への影響を鑑み、事業の検討を進めていくこと。

《現地踏査について》

■ワーキングサポートセンター各種改修工事

■南別府線道路改築工事



■宮の前・天ケ瀬・井上線落石対策工事

《付帯意見として》

ワーキングサポートセンターのウッドデッキ改修工事について、改修箇所以外にも木材の腐食が進行している部分があり、速やかに対応を検討すること。また、木材は、防水・腐食対策などの継続した維持補修が必要となるため、今後、大規模な改修が必要となる場合は、より耐久性の高い材質への変更についても検討すること。